④ 素玄寺（そげんじ）

素玄寺は、慶長13年（一六〇八）に亡くなられた初代高山城主 金森長近 の供養を行うために、二代目可重が翌年に建立した曹洞宗のお寺です。長近の法名「金龍院殿前兵部尚書法印要仲素玄大居士」からとって素玄寺となりました。

建立以来、金森家歴代の菩提所となっており、金森家から寄進された寺宝がたくさんあります。鶴毛陣羽織は、長近が豊臣秀吉からもらったものだと伝えられています。軍扇・采配・吉久鎧通し・長近肖像などがあり、本堂や宗和好みの庭園と共に、高山市の指定文化財になっています。

本堂は高山城三の丸にあった評議場を移築したものです。8月9・10日には松倉町にある松倉観音堂で縁日法要があり、普段は素玄寺の観音堂に安置されている本尊の馬頭観世音菩薩が移されます。法要にあわせて行われる絵馬市には、全国各地からたくさんのお参りがあり、絵馬を買い求めていかれます。

① 久昌寺（きゅうしょうじ）弁天堂

宝永7年（一七一〇）に、道宣和尚が信徒の信心深さを感じて建てたことから始まります。弁天（弁財天）と言えば両手で琵琶を持つ姿が一般的です。七福神の女性の神として有名で、インドでは仏教を守護する神々の天女で、「聖なる河」と呼ばれています。学問・芸術、豊穣・繁栄、勝負事、その他いろいろなご利益がある神様です。弁財天の前では「オン ソラソバテイエイ ソワカ」と唱えます。

⑤ 天照寺（てんしょうじ）

最初は寿永元年（一一八二）に天台宗 天照皇寺 として建てられた古いお寺です。金森長近が高山の城下町をつくる時に、浄土宗 天照寺 となって現在まで続いています。

天照寺は、初代越後高田藩主の松平忠輝と、初代肥後熊本藩主の加藤清正の孫の加藤光正が、配流され金森重頼に預けられた際に謹慎生活を送ったお寺です。

かつて裏の東山神明神社の別当（寺社を管理するためにおかれた寺）でしたが、明治3年、明治政府の神仏分離政策によって神社と寺が分かれ、天照大御神と同じ字であったため、その時、町名と共に「天照」から「天性」に変わりました。昭和17年に寺の字だけ、「照」に戻りました。

本尊の阿弥陀如来は、12世紀後半に作られ、高山市の文化財に指定されています。

② 雲龍寺（うんりゅうじ）

養老4年（七二〇）に創建された東山白山神社の別堂 妙観寺としての記録があります。その後衰退しましたが、応永2年（一三九二）に曹洞宗 雲龍寺 として創建されました。

雲龍寺は高山城主 金森長近の長男 忠次郎長則 の菩提寺です。

元禄5年（一六九二）、高山城が幕府の命令により取り壊される折に、城内三之丸にあった黄雲閣という建物を移築したのが現在の鐘楼門です。屋根や通路の構造、上層外回りの戸溝などがお寺の門としては他には無い形状です。享保14年（一七二九）に起きた大火では、羽目板の一部が焦げただけで、焼失をまぬがれました。

⑥ 法華寺（ほっけじ）

法華寺は、九州から高山へ流され、翌年この地で亡くなった熊本城主 加藤清正 の孫である加藤光正をあわれんで、三代目金森重頼が建てたお寺だといわれています。正面に建つ本堂は、今から約400年前（江戸時代）に建てられた高さ約13m・幅約20m・奥行約15mもある立派な建物で、県指定文化財になっています。

本堂の横の庭には池があり、太鼓橋といわれる石でできた橋がかかっています。橋を渡って石段を上がったところに番神堂とよばれる建物があります。内部は奥が高くなっていて、中央に鬼子母神、その脇にお稲荷様やお地蔵様、法華寺とゆかりの深い加藤清正などが祀られています。

③ 大雄寺（だいおうじ）

天正14年（一五八六）に浄土宗のお寺として建てられました。現在の本堂は、昭和44年の火災の後に再建されました。

鐘つき堂は元禄2年（一六八九）に作られた飛騨地方最古のもので、県の重要文化財に指定されています。

山門は二階建ての素晴らしい作りで、災いからお寺を守るため、左右に仁王様が配置されています。

境内にある地獄絵は色鮮やかに恐ろしく描かれています。死んだら、鬼によって閻魔大王の前に連れて行かれ、生前の行いによって、地獄で苦しむか、畜生に生まれ変わるか、人間に生まれ変わるか裁かれます。生きている内に悪いことをしたり嘘をついて人を騙すと、地獄に落ちて苦しむのです。その全体を描いたものが「地獄絵」です。

⑦ 善応寺（ぜんのうじ）

元禄元年（一五五八）、飛騨を平定した三木自綱が松倉城築城の折、城下である今の西之一色町南交差点付近に、真言宗のお寺として建立したそうです。しかしながらその僅か27年後の天正13年（一五八五）、金森長近の軍勢によって松倉城は落城。善応寺も戦火にみまわれましたが、本尊の「如意輪観世音菩薩」は焼失をまぬがれて、金森氏の手に渡りました。

その後金森氏が、菩提寺である素玄寺に命じて寛永3年（一六二六）に曹洞宗のお寺として善応寺を再興させ、天保6年（一八三五）に現在の場所に移されました。

曹洞宗の教えのもとは、お釈迦様の修行に由来する坐禅にあります。その姿そのものが「仏の姿」であり「悟りの姿」です。座ることで身体・呼吸・心を調え、様々な思惑や欲にとらわれないようにすることが大切です。昭和49年に建立された坐禅堂は、希望者が坐禅指導を受けられる施設です。

⑧ 宗猷寺（そうゆうじ）

宗猷寺は、高山で唯一の臨済宗妙心寺派の寺院です。寛永9年（一六三二）に三代目金森重頼と、弟で家老の金森左京重勝が建立しました。

高々と積まれた石垣は、高山城から移されたものといわれており、その上に、高山では珍しい二層の本堂が建っています。

西郷隆盛と勝海舟の江戸城無血開城につながった会談を取り持った幕臣の一人として知られる山岡鉄舟の碑と、飛騨郡代だった鉄舟の父親と母親の墓が境内に祀られています。

父親と住職が親しく、少年時代を高山で過ごした鉄舟は、宗猷寺で禅学を修め人間形成を行ったと言われています。

また、一本気なところもありました。「寺の鐘が欲しければくれてやる」と言った住職の冗談を本気にし、本当に降ろそうとした話は、知る人の多いところです。

宗猷寺は、本堂・石垣・観音堂・鐘楼・庭園などの姿と共に、今も禅の心を伝えています。

※説明文は、当日配布された朱印帳の内容を参考にしています

（主催）／高山市景観町並保存連合会　子ども伝承部会　（共催）岐阜県建築士会飛騨支部　（後援）高山市・高山市教育委員会